



## 第 2 回「IELTS スピーキング 8.5 は誰でも狙える!概要と勉強法」

嶋津幸樹

全 8 回でお届けする連載「世界と繋がる IELTS」、第 2 回の今回は IELTS スピーキングに焦点を当ててお届けしていきます。IELTS スピーキング 8.5 というネイティブスピーカーのような完璧な発音と流暢さが求められると思われるかもしれませんが、いくつかの鉄則を身につけると誰でも狙えるバンドスコアだと信じています。僕が初めて受験した IELTS スピーキングは 6.0 でしたが、約 1 年後に東京で受験し 8.5 まで UP、留学中にロンドンで受験して再び 8.5 を獲得できました。今回はそんな IELTS スピーキングの概要と共におすすめの勉強法を解説していきます。

IELTS スピーキングは 11 分から 14 分間、面接官との 1 対 1 のインタビュー形式で行われます。スピーキングテストは Part 1 から Part 3 の 3 つのパートで構成されていて、Part 1 では受験者の日常生活に関する質問、Part 2 では指定されたテーマについての質問、Part 3 ではテーマを掘り下げた質問が準備されています。IELTS スピーキングの面接官になるためには豊富な指導経験と英語教授法の資格が求められます。また面接官になってからも定期的なトレーニングと採点の精度や実施手順を再確認するプロセスがあり、IELTS スピーキングは英語教育のプロ中のプロと対話ができる貴重な機会だということです。

Part 1	受験者の日常生活に関する質問	3~5 分
Part 2	指定されたテーマについての質問	3~4 分
Part 3	テーマを掘り下げた質問	4~5 分

まずは IELTS スピーキングの「評価基準から逆算攻略」をしていくことが重要です。試験官は流暢さと一貫性(Fluency and Coherence)、語彙力(Lexical Resource)、文法の知識の幅と正確さ (Grammatical Range and Accuracy)、発音(Pronunciation)の 4 つの評価基準で受験者の英語力を総合的に評価します。IELTS の公式 HP ([www.ielts.org](http://www.ielts.org)) にはスピーキング評価基準 (Band Descriptors) が公開されていて、各バンドスコアの詳細な情報を知ることができるのでダウンロードしてみましょう。評価基準を読み解くなんて面倒臭いと思われるかも知れませんが、1 時間程度じっくり評価基準と向き合うだけで IELTS スピーキングでは何が求められていて 9.0 に近づけるためには何が必要なのかが理解できるはずです。

次に「基本英単語・基本英文法の徹底」、特に Part I の精度を高めることを意識した学習が重要です。IELTS スピーキングで 8.5 を獲得した時に共通していたこと、それは Part I の完成度の高さです。これまで指導してきた IELTS スピーキング 7.0 を超えられない学習者の多くは難易度の高い英単語を知っているけど、基本英単語・基本英文法のアウトプット精度が低いことが多々ありました。まずは拙著「IELTS 基本英単語(ジャパンタイムズ出版)」でも触れていますが、出題頻度の高い基本英単語 2000 と基本例文 200 をマスターしましょう。4 つの評価基準を意識しながら Part I で完璧な回答をすることで Part 2 と Part 3 に応用することができるかと確信しています。

Part I は受験者の日常生活に関する質問をされるため、英語で自分のことについて語ることに慣れておく必要があります。僕がおすすめしているのが 30 のテーマについて 1 分間スピーチを準備しておくことです。30 のテーマは「仕事」「友人」「食事」「交通」「健康」など IELTS 頻出のものでも自分の好きなことでも 1 分間語り続けることであらゆるテーマに応用することができます。ここで大切なことは高度な英語表現を無理矢理使うのではなく、発音や流暢さを意識しながら基本英単語・基本英文法を正確に使いこなすことです。

最後に実践を意識した勉強法です。それは与えられたテーマに対して瞬時に文章を組み立て端的に的確に自分の言いたいことを伝え口説き落とす「30 秒完全論破術」というものをおすすめしています。起業家が多忙な投資家にエレベーターで遭遇した時に 30 秒で自らのアイデアやビジネスを伝えるプレゼンテーションを「エレベーターピッチ」と言いますが、IELTS スピーキングでも自分の意見を一貫性と創造性を持って瞬時に伝える必要があります。この時間の制約と共に瞬間的なアウトプットを繰り返す練習が効果的です。

「30 秒完全論破術」というと少し過激な表現と思われるかもしれませんが、日本語のような場の空気を読んでオブラートに包んで自分の意見を述べるのではなく、英語でのコミュニケーションでは結論をはっきり述べてから自分の意見を堂々と主張することが多くあります。日本語話者は家族のことを話し、英語話者は自分自身のことについて語る傾向があるという研究もあります。英語学習を始める前に社会言語学的な視点から、日本語と英語のコミュニケーションの違いを理解し、簡潔に 30 秒で想いを伝える練習を繰り返しましょう。

今回のポイントをまとめると「評価基準から逆算攻略」「基本英単語・基本英文法の徹底」「30 秒完全論破術」です。これらを意識してまずは Part I の精度を高めることを徹底していきましょう。次回は「IELTS エキスパートが伝授する IELTS スピーキングで使える表現集」と題してビッグデータを用いて頻度の高い表現を抽出できるコーパス言語学の技術を用いて IELTS スピーキングに必要な最重要英単語とアウトプットに使えるテンプレート形式で紹介します。

[IELTS 編集部 記事一覧へ戻る](#)